

## 令和元年度 北区まちづくり推進経費の目標および実績について

※令和元年度は提言2(企業見学ツアー)について予算計上なし。

予算総額

18,000千円 (単位:千円)

方針	プロジェクト名	事業名	内容	予算額	目的 (ビジョン 項目))	目標や期待される効果 (参加者数や満足度など)	目標に対する実績 (参加者数や満足度など) ※2019.11.30現在	提言との関わり
(方針1) 誰もが楽しく集い、『笑顔』 が広がる「場」の創出	① 北区笑顔交流プロジェクト	◆ひまわり絵画コンクール(総務企画課)	・小学生を対象にしたひまわりの絵画コンクールを行い、北区の花「ひまわり」を周知する。	100	①健康と暮らしの安全・安心の向上 ・ ③まちの賑わいと産業の振興	多くの小学生に応募をしてもらい北区の花「ひまわり」に親しみを持ってもらおう。	21校1,180点 (R1年度実績)	
		◆北区こどもまつり(総務企画課)	・地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守りながら、区民の親睦・交流を図る。 ・2019年は、新たに完成する植木中央公園運動施設にて、スポーツイヤーにふさわしい、子どもたちのスポーツ体験も兼ねたまつりを展開し、スポーツに対する機運の醸成を図る。	2,600		こどもまつりの来場者数 10,000人	10,000人(R1.11.16開催) (来場者満足度94.4%)	提言1(スポーツ) ※ ハンドボール体験コーナーを設置。
		◆北区いきいき交流スポーツ大会(福祉課)	・スポーツを通して地域内外の、世代間交流も含めた交流融和を促進する。 ・スポーツを通して体力づくり、健康づくりの意識高揚を図る。 ・北区一円に呼掛け、市民が集うことで、北区住民相互の一体感を醸成する。	450		H29→H30の参加者5%の伸び。 令和元年度もさらに対前年比5%以上増の参加者と相互交流の促進と満足度UPをめざす。	・参加者数、対前年比12%増の500名(大会規模実績556名(参加者500名、スタッフ56名)。新設の植木中央公園運動施設を使用し、天気も良く多くの満足の声がかかれた。	提言1(スポーツ)
	② 北区居場所づくりプロジェクト	◆きたくなるカフェ(保健子ども課・4まちづくりセンター)	植木温泉にて月1回、乳幼児の親が集える機会を提供し、仲間づくりを行う。 同じ地域に住む仲間ができる。地域活動に興味のある参加者を地域につなぎ、地域活動の参加者増加につなげる。	197	④地域資源の継承と活用 ・ ⑤住民自治と協働の推進	子育て世代がこの事業を入口とし、他のまちづくり事業につながっていくことで、仲間づくりや地域活動に取り組む契機となる。更に地域活動の担い手となることを期待する。	参加者25人(R1.11月現在) ・校区の地域活動に参加したい100%	
		◆The Rev Saxophone Quartetによる北区PR事業(北部まちづくりセンター)	音楽ファンや若い世代の参加できる機会として、Sax奏者4人による演奏会を開催。 上質な音楽により北区で和む空間を提供。奏者と北区との接点を作っておくことで、今後の北区のPR事業にも参加してもらおう。	740		音楽を通じて、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会の実現のため、すべての人がステークホルダーであることを理解し、自分事として捉えて持続可能な行動できるように周知を図るもの。参加者数200名目標。	参加者数のべ300名 (R1.11.30 実施)	
		◆御馬下の角小屋カフェ～昔話を聴きながら～(北部まちづくりセンター)	川上校区にある御馬下の角小屋において、地域住民が集い昔話の伝承等を行う。多世代交流を促し川上校区の住民のつながりを深める。	22		地域にある文化施設での多世代交流として効果があった。アンケート回答も好評であり次年度開催を望まれる声が多かった。	児童8名・高齢者14名 参加者数22名  当初20名を想定していたがそれを上回る集客となった。	提言3(多世代交流の場)
		◆北部まちづくりセンターを活用した子どもの居場所づくり(北部まちづくりセンター)	北部民児協(ボランティア)が北部まちセンを利用して児童の見守り活動をする。 退職された地域の人たちが地域の子どもたちとの交流により生きがいができる。多世代交流により、地域の遊びの伝承等ができる。	64		地域・学校・行政の協力体制で実施できた。地域ボランティア活動が活発な地域性から、参加する児童生徒が多くなっている。地域ボラと児童生徒の信頼関係も生まれた。	地域ボランティア 10名程度 参加児童生徒 10～20名/日	提言3(多世代交流の場)

方針	プロジェクト名	事業名	内容	予算額	目的 (ビジョン 項目))	目標や期待される効果 (参加者数や満足度など)	目標に対する実績 (参加者数や満足度など) ※2019.11.30現在	提言との関わり
(方針2) 健康の大切さを知り、お互いを思いやり支え合う気持の醸成	③ 北区健康・支え合いプロジェクト	◆健康まちづくり報告会(保健子ども課)	報告会において、各校区での活動発表とワークショップを開催する。 他校区の健康づくり活動を知り、自身の校区の参考にすることで、健康の増進につながる。また、健康を通じたまちづくり活動への波及を期待する。	245	①健康と暮らしの安全・安心の向上 ・ ⑤住民自治と協働の推進	・住民の日頃の活動成果のアピールの場となり、住民のやりがいにつながる。 ・地域組織間の連携が深まる。 ・ソーシャルキャピタルの醸成に寄与する。	12/18開催予定 21校区1地区の自治協議会および健康まちづくりを推進するメンバー等130名程度参加予定。	
		◆子育て世代からのアンチエイジング事業(保健子ども課)	1歳6ヶ月・3歳児健診に同行した保護者に対し、問診・骨密度検査・簡易血糖検査を実施する。また、きたくなるカフェの参加等につなげる。子育て世代にも自身の健康について考える機会を持ってもらい。継続して結果を追うことで、若い世代の健康課題等を的確に捉え、今後それに応じた対策を講じる。	1,943		・子育て世代が自分自身の健康を振り返る機会となる。 ・生活習慣の改善や介護予防に取り組むことができる。	1歳6ヶ月児健診:33回 3歳児健診:31回実施 (11月末現在) 自分の健康を振り返る契機となっている。	
		◆ごみ捨てFace to face作戦(北部まちづくりセンター)	認知症によりごみ捨てをルール通りにできない人に対し、支援を行う仕組みを作り、モデル事業を実施する。認知症となった人もごみ捨てのルールを守り、安心して生活ができる。また、認知症に対する見守り・支援活動になり、「おたがいさま」のまちづくりにつなげる。	220				
	④ 北区安全・安心プロジェクト	◆校区防災訓練等支援事業(総務企画課)	防災訓練、防災に関するワークショップ、防災講座の開催。29年度から避難所開設や運営についての初動の訓練を実施しており、避難所運営についての考え方に着実に変化が見られる。今後も継続していくことで、地域住民同士の繋がりがりや行政との連携がより一層増し、地域防災力の向上に繋がる。	1,344	①健康と暮らしの安全・安心の向上 ・ ⑤住民自治と協働の推進	随時受付 地域連携強化及び防災力の向上	6校区・1地区・11の町内会等で 防災訓練や講話を実施 参加者総数 1,980人 (11月末現在)	
		◆防災訓練等講座の開催、防災キャンプの開催(清水まちづくりセンター)	4校区合同の防災連絡会および体験型防災イベントの実施。4校区合同で実施することで地域間の情報共有ができる。また、避難所運営に必要なノウハウの取得が可能。	281		各校区の防災への取り組みについて情報交換・課題共有し、防災への取組の充実につながる。	・4校区合同防災連絡会 12/7開催予定参加者約40人 ・体験型防災イベント 2/9開催予定	
		◆防災食育らくらくクッキング(保健子ども課)	校区防災連絡会・食生活改善推進員と協働で食育を通じた防災まちづくりを実施する。地域リーダーコース、親子コースの2コースで実施する。子どもや子育て世代への健康づくりの推進となり、防災意識の向上に寄与する。	360		災害など非日常の状態でも、区民が自分たちで協力し合い、地域で健全な食生活が営める。	11回実施(参加者454名) (令和元年11月末日現在)	
		◆安全安心のまちづくり事業(植木まちづくりセンター)	犯罪対策の講座・講演等を開催する。安全安心のまちづくり推進することで、市民は安全で快適に暮らすことができる。	170		警察をはじめ地域の各種団体・企業・住民が相互に連携し、安全安心な地域社会、青少年が健全に育つ明るく住みよい地域にする。	○参加者 400名 ○熊本県暴力追放県民大会では、植木地域校区自治協議会連合会が功労者表彰を受けた。	

方針	プロジェクト名	事業名	内容	予算額	目的 (ビジョン 項目))	目標や期待される効果 (参加者数や満足度など)	目標に対する実績 (参加者数や満足度など) ※2019.11.30現在	提言との関わり
地域での活動を支援	⑤ 自主自立のまちづくり推進プロジェクト	◆担い手育成事業(植木・北部・龍田まちづくりセンター)	地域団体に所属する人を対象に、エクセル講座・POP作成講座を実施。地域団体の会計事務の適切な運営につながるのと同時に、見て楽しいチラシを作成できるようになることで回覧板のチラシの内容充実につなげるもの。	381	②住みやすい住環境の整備 ・ ④地域資源の継承と活用 ・ ⑤住民自治と協働の推進	【エクセル講座】 会計事務に従事される方のスムーズな業務遂行とスキルアップ、担い手の育成を目的とする。(植木まちセン)	【エクセル講座】 ○参加者:14名 ○アンケート結果 ・今後の業務に活かせる内容だった⇒100% という結果であった。(植木まちセン)	
						【ドン・キホーテのPOPを学ぼう】 手書きによる温かみや自由さを学べ、ペンの使い方でも多くの表現が出来、その技術を地域活動に活かす心構えが出来た。(北部まちセン)	【ドン・キホーテのPOPを学ぼう】 ○参加者13名 ○アンケート結果 地域の方に伝えたい チラシ作成をすることで地域に貢献したい。等回答があり満足度は100%という結果であった。(北部まちセン)	
						【ワードでつくるチラシ講座】 チラシや回覧文書などについて、見やすい文書を作成するコツを学び、地域活動の円滑化につなげる。(龍田まちセン)	【ワードでつくるチラシ講座】 ○参加者8名 ○アンケート結果 おおむね今後の業務に生かせるという回答であった。(龍田まちセン)	
						【LINE講座】 各種団体内での連絡等に便利なLINEの操作方法等を学ぶとともに、熊本市公式LINEの普及を目指す。(龍田まちセン)	【LINE講座】 R2.2月実施予定(龍田まちセン)	
		◆地域資源活性化支援事業(清水まちづくりセンター)	「公園の自然環境を学ぶ(講座等)」「水の科学館との連携(イベント・ワークショップ等)」を行う。以前の資源環境を積極的に取り戻し、八景水谷公園における地域資源としての価値を高める。また、地域コミュニティの醸成に寄与する。	499		生態系の保全や生物種の保護に向けた地域の機運醸成を図るとともに、新たなネットワークの構築と地域活動担い手育成につなげる。	【講座】 城北小3年生向け7/6 一般向け11/16・23・30 参加者総数44人 【親水イベント】 8/3 参加者30人	
		◆地域活動支援事業(龍田まちづくりセンター)	龍田地域(6校区)の白地図を作成し、関係団体へデータ・地図を配布する。各校区の自治協をはじめとする各種団体における活動の支援につながる。	2,059		地図を作成することで、町内自治会の活動範囲がお互い分かりやすくなる。	現在作成中 (R2.3.31完成予定)	
		◆北区地域コミュニティづくり支援補助金(総務企画課)	申請書、事業計画書、見積書を提出後、審査会においてプレゼンテーションを行い、採択団体について補助金交付決定を行う。モデル事業分については、最長3年間で補助対象期間とし、毎年度審査会にてプレゼンテーション・審査を行う。	4,140		地域団体等による自主自立のまちづくり活動の構築に向け支援を継続する。	R1年度採択団体数:モデル事業分9団体、課題対応分10団体	

方針	プロジェクト名	事業名	内容	予算額	目的 (ビジョン 項目))	目標や期待される効果 (参加者数や満足度など)	目標に対する実績 (参加者数や満足度など) ※2019.11.30現在	提言との関わり
地域を支える土台づくり	⑥ 「北区の魅力」発信事業!	◆「北区の魅力」発信事業!(総務企画課)	北区の象徴となるシンボルマークや区の花「ひまわり」を通して、区の魅力に磨きをかけるとともに、区内外に向けた魅力発信のツールとして活用する。	715	②住みやすい住環境の整備 ・ ⑤住民自治と協働の推進	北区のシンボルマークおよび北区の花「ひまわり」を通して区の一体感を図る。	知っている割合について、北区こどもまつり来場者においてアンケートを実施。 マーク45.0%、ひまわり44.1%。	
		◆「北区の魅力」発信事業!(植木まちづくりセンター)	北区役所周辺施設の敷地内にある花壇に、公民館利用者、中学生、地域の方々へボランティア募集を行い、北区役所職員と共に花植えを行うことにより、環境美化および参加者相互の交流によりコミュニティの醸成を図る。	140		公民館利用者、中学生、地域の方々へボランティア募集を行い、北区役所職員と共に花植えを行うことにより、環境美化および参加者相互の交流によりコミュニティの醸成を図る。	【1回目:6/21】 ○参加者 35名 ○日々草等の苗4種(250株)、ひまわりの種を植えた。 【2回目:12/12実施予定】 ○参加者 ○パンジー他750株、チューリップ植栽予定	
	⑦ 緊急課題対応費	緊急課題対応費	突発的な地域課題に対して、迅速かつ柔軟に対応することで、自主自立のまちづくりを推進するとともに、地域と行政との連携強化・信頼関係構築につなげる。	1,000	⑤住民自治と協働の推進			
	⑧ 北区まちづくり懇話会	北区まちづくり懇話会(総務企画課)	区の特性を生かしたまちづくりについて、北区に關係のある方の意見・提案をいただく場。若い世代(高校生・大学生等)を交えたワークショップを取り入れるなど、多様な意見を聴取する。	330	推進体制			
合 計				18,000				